

社協だより

第182号

2019.6.1

点字・墨字版あります

【編集・発行】社会福祉法人 直方市社会福祉協議会 〒822-0034 直方市大字山部616-145
TEL 0949 (23) 2551 FAX 0949 (23) 2552
e-mail: nogata-shakyo@fuga.ocn.ne.jp HP: http://www.nogatashakyo.org/

災害を「我が事」として考える！



直鞍エリア社会福祉協議会
災害時相互支援協定書調印式



● 難病がくれた宝物 2

● 地域の輪 (コミュニティFMちよっくらじお)

情報の広場 (不登校・ひきこもり学習会／障がい者問題を考
える講演会／日帰りハイキング参加者・ボラン
ティア募集)

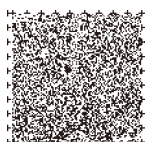
図書室 (神様の裏の顔) 3

● お知らせ (新事務局長就任挨拶・新職員紹介・第44回よこいと
運動会・ヘルパー募集)

ご寄付 4

もくじ

遠賀川の直方地区では、平成30年7月豪雨の際、基準地点である日の出橋において、観測史上最高位を越す大規模な出水を記録した。遠賀川河川事務所では、感田地区においても再度、災害防止を目指し洪水対策として、大規模な河道掘削工事が進められている。梅雨前の今、多くの掘削重機と、行き交う土砂搬送の大型トラックの爆音砂煙が、河川敷を異次元の世界へと変えている。(広田)



国土交通省
洪水対策で緊急予算配分

一昨年より災害をテーマに、直方市・宮若市・鞍手町・小竹町の2市2町の社会福祉協議会が連携し、災害が起きた際のボランティアアセンタールの運営や、職員の派遣、物資の相互連携などについて研修会を行ってきた。約2年間の協議を経て、本年2月18日、実際に災害が起きた時を想定した協定書の調印が、各会長によって行われた。今後は直鞍地区内での、より一層の協力体制強化が求められる。

直鞍エリア社会福祉協議会
災害時相互支援協定締結

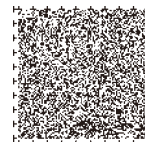
kantera

カンテラ



難病がくれた宝物

～今が一番幸せです～



平成30年度地域福祉セミナー（3月16日開催）では、講師にPLS（原発性側索硬化症）と共に生きる落水洋介さんに講演していただきました。落水さんは1982年北九州市に生まれ、2013年にPLSを発症。PLSとは、少しずつ身体・手足・口が動かなくなって、数年後には寝たきりになると言われている、100万人に1人が発症する難病です。講演の冒頭で落水さんは「僕は手がどんどん動かなくなって、足がどんどん動かなくなって、喋ることも出来なくなって、トイレも自分で行けなくなって、そして寝たきりになります。たくさんの人の手が必要になります。皆さんが払った税金のお世話になります。そんな僕は死んだほうが良いのでしょうか？寝たきりの障害者は、命の価値が低いのでしょうか？」と参加者に問いかけました。

講演冒頭のショッキングな問いかけに、参加者一同息を飲みました。落水さんもPLS発症当時は「迷惑をかけくらいなら死んだほうが良い」と最悪な未来をイメージして、最悪な未来を自分で見ようとして、自分で自分の心を傷つけていたそうです。でも家族がいて生活があるから、どうにかしないとイケない。繰り返し考えて、考えて、考え抜いても答えは出ず、寝たきりになる現実からも逃げられない…。そして、見方を変えて「悩んでも、悔やんでも、何も変わらず自分も苦しい思いをするだけ！もったいない！起こった事実は変えられないけれど、目の前に続く未来は変えることが出来る！明るい未来を見よう！」と考える様になりました。

それからの落水さんは、（毎日のささいな出来事にもプラスな意味付けをする）（何事にもチャレンジしてあきらめられない）ということを繰り返し、色んな夢を現在進行形で叶えていかれています。冒頭の問いの答えは、当然「NO」です。命の価値に高いも低いもありません。（障害・高齢・病気）は自分とは違う、別の世界のことでありません。いつ当事者になるかわからず、明日は我が身、自分の未来につながっています。みんな違って当たり前、みんな違ってみんな良いことを認め合える社会は、みんなにやさしい社会になるということを、講演を通じて改めて気付かせて頂きました。

今、落水さんは毎日のちっちゃな“ありがとう”をたくさん集めています。ちっちゃな“ありがとう”の数がどんどん多くなると、落水さんはこう思うようになりました。病気をしたのに、もうすぐ寝たきりになるのに…

「僕は今、人生で一番幸せです。」

講演の中では、他にもたくさんの言葉を聞かせて頂きました。一部ですが、皆様にもご紹介したいと思います。

不機嫌は罪です。伝染します。
でも、笑顔も伝染します。

前向きは技術です。
練習して身に付けましょう！

自立とは相互依存関係が高い人のこと。
支え合える仲間が多い方が何でもできる。

幸せは他人と比べるものではない。
自分の心だけで感じるもの。

手が動くこと、歩けること、しゃべれること、
友達と会えること、当たり前と思って
いたことがこんなにも嬉しい。

命の価値に高いも低い
もない。



人は自分で見ようと思っ
たものしか見えない。

常識、固定概念は自分が勝手に作っ
ている。

感謝が大事、笑顔が大事。
当たり前すぎてすみません。

出来ないことは出来る人にやって
もらったら良い。

夢を“恥ずかしげもなく語りまく
ること”が大事。

犬のうんちを踏んでも「よし！ラッ
キー！運がついてるわ！」と思う
（笑）。

心豊かに生きて行くための秘訣を学ぶことが出来る、大変ありがたい研修でした。学んだ秘訣はたくさんありましたが、ポイントをまとめると、次の4つになります。

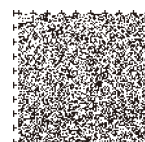
- ① 物事を前向きにとらえること。
- ② 多面的に考えること。
- ③ 夢を持ち続けること。
- ④ 幸せ・不幸せに実体は無く、受け取る人の心が作り出していること。

病気になり、自分の意志とは関係なく身体が不自由になっていく現実、きつと苦悩されたことでしょうか。しかし、それを表に出さず世間でよく聞く「ピンチはチャンス」の精神で現在の境地を開かれたことと思います。

例題として「犬のうんちを踏んだ人はついてないと思いますよね？でも地球上の何十億分の一にすぎない、狭い所で出会った幸運とってはいいかがですか？」と話されました。実は後日、犬の散歩中に桜の花を見上げて歩いていて、実際に犬のうんちを踏んでしまいました。「瞬「ついてないな…」と思いました。研修で聞いていたことを思い出し、落ち込まず、イライラすることもなく、再び散歩を続けることが出来ました。

私は、今回学んだことを自分の生涯をかけて身に付けよう！それを自分の夢にしよう！と誓いました。（石黒）

研修会に
参加して



地域の輪

地域に根ざした独自の福祉活動を紹介します。

地域へ発信 地域をつなぐ

「コミュニティFM」ちよつくらじお

古町商店街の真ん中あたりに、とあるスタジオがあります。6月1日開局予定のコミュニティFM、その名も「ちよつくらじお」のスタジオです。筑豊地区では初のコミュニティラジオ局になります。

ここを作られた岩尾一豊さんにお話を聞きました。岩尾さんは「地域の人たちが、日々の生活の中で体験した出来事、思っていることなどを当事者自身の声で話してほしい。」「生の声をマイクを通して発信することで、色んな人を知ることが出来る、その事が街を作っていくと思う。」と話されます。

また「このラジオの発信力を、昨年7月の豪雨時の様な緊急時に対応できる情報発信媒体として活用し、コミュニティラジオとしての役割も果たしていきたい。」というこ

とも話されました。例えば道路状況、各避難所の現状や、物資な

《周波数》

86.1メガヘルツ



どの情報をラジオを通して私たちが知ることが出来れば、大きな安心につながります。災害発生時、テレビでは映らない自分が住んでいるエリアに特化した情報や、刻々と変わっていく状況を、継続的に知らせることの出来るラジオ放送は、地域の人たちにとって、とても力強いものになるでしょう。

(田中)

情報場の広場

不登校・ひきこもり
学習会

「ひとりではないと気づいて…」をテーマに、北九州市ひきこもり地域支援センターよりお招きした当事者・家族・支援者の方々にお話をさせていただきます。ひとりで抱えず、一緒に考えてみませんか？

日時

7月6日(土)

13時30分～15時30分

会場

直方市総合福祉センター

対象

どなたでも大歓迎です

主催

学校に行かない子どもを支える会

問い合わせ

直方市社会福祉協議会

障がい者問題を
考える講演会

本人や家族が望む終の住みかを実現するにはどうすればよいのか、共に学び、考えましょう。

日時

6月16日(日)

11時～12時30分

会場

直方市中央公民館

(直方市津田町7-20)

講師

北九州市立大学

文学部人間関係学科

対象

どなたでも大歓迎です

主催

障がい者問題を考える直方市連絡会議

問い合わせ

直方市社会福祉協議会

参加者・ボランティア募集

第5回
日帰りハイキングを開催します。

■日時

8月18日(日)

10時～14時

■行き先

谷尾美術館

直方歳時館

新町北公園

■参加費 無料

■主催

第5回日帰りハイキング
実行委員会・ボラ連青年部

■申し込み・問い合わせ

久保直幸(実行委員長)

Tel.090(5924)0603

図書室



「神様の裏の顔」

著者 藤崎 翔

発行所 KADOKAWA

直方市立図書館蔵

題名が気になって読んでみた、いや面白い。お通夜に参列した方々それぞれの視点から思い出や出来事が次々と展開されていく…。

「あの坪井さん、お気の毒にねえ。神様のような人だったわ。」まさに、神様のような清廉潔白な教師、坪井誠造が逝去した。その通夜は悲しみに包まれ誰しもが涙した…と思いきや、年齢も職業も多様な参列者たちが彼を思い返すうち、とてもない犯罪者だった疑惑が持ち上がり…。

聖職者か、それとも稀代の犯罪者か…驚愕のラストをだれかと共有したくなる読後感の強烈ミステリー。

元お笑い芸人が描く特異の一冊、第34回横溝正史ミステリー大賞受賞

作品。巻末の4

人の選評も、読

者にとっても大

変興味深く読める。(広田)



新人職員紹介



谷川 真子

はじめまして、4月に入社しました谷川真子です。初めてのことがばかりでいつもあたふたしていますが、早く仕事を覚えて、地域の皆様のお力になれるように精一杯がんばります。お会いした際は気を遣わず、フレンドリーに接してください。
この春直方に引っ越してきたので、この地域のことをたくさん教えてもらえると嬉しいです。よろしく願います！

新事務局長紹介



事務局長
駒山 博人

4月に事務局長に就任しました駒山博人です。
社会福祉協議会(社協)の役割は「地域福祉の推進」ですが、福祉の仕事をしていない人にはピンとこない言葉だと思います。
今では当たり前の福祉(例えば、「保育所(学童保育)」や「高齢者配食サービス」「障害者の権利をまもる運動」など)が当たり前ではない時代(きこ)でも、必要としている人(日常生活に不便さや生きづらさを感じている人)は当然いました。社協は、そのような人たちの声を聴いて何が必要かを一緒に考え、行政施策等に反映するまでの間、ボランティアの力を借りて当事者の支援を続けてきたという歴史があり、それはこれからも変わることはありません。
一例を紹介しましたが、社協を身近に感じていただければ幸いです。どうぞよろしく願います。

障害者、高齢者、子ども、ボランティア誰もが力を合わせて 第44回よこいと運動会開催

よこいと運動会は、障害や年齢に関係なく、誰もが楽しめる運動競技を通して、皆が“よこ”につながることを大切にしたい運動会です。

■日時 6月2日(日) 10時～15時頃

■会場 直方市体育館(直方市直方 674-25)

■無料送迎バス

・直方駅発 1便 8時50分 2便 9時20分
・体育館発 15時頃(全日程終了後)

■注意

・体育館シューズとシューズ入れをお持ちください。
・参加賞としてパンと飲み物を配布いたしますが、昼食が必要な場合は各自ご持参ください。

■問い合わせ 直方市社会福祉協議会

登録ヘルパーとして 働きませんか?

ご利用者の地域生活を、一番近くで支える
とても素敵なお仕事です。

資格

ホームヘルパー2級以上の修了者及び
介護職員初任者研修課程修了者

■活動時間 7時～21時の間
(勤務時間は相談の上)

■賃金(時給)

1,100円～1,860円

■問い合わせ

直方市社会福祉協議会 総務係
TEL 0949(26)2551



ご寄付ありがとうございます。

平成31年2月11日(令和元年5月10日)
10件 合計金額 209,610円

(お名前は承諾された方のみ掲載、敬称略)

香典返し寄付金

●植木(故濱松 治義)

●上境(故輪田節次郎)



一般寄付金

●福岡ひびき信用金庫 イングスクラブ

●福地校区公民館

●旧南寿会

平成31年3月28日(木)に、福地校区公民館様より、寄付していただきありがとうございました。ご厚意に感謝いたします。



平成31年3月8日(金)に、福岡ひびき信用金庫イングスクラブ様より、寄付していただきありがとうございました。ご厚意に感謝いたします。



編集後記

福岡県内初の「直方市手話言語条例」施行から約2年が経過した今年の2月2日、手話コーラスやろう劇団による手話演劇等、ろう者と聴者が一緒になって作り上げた直方市主催の手話啓発イベントが、ユメニティのがたで開催された。

ろう者の方から「手話演劇は手話や身振りが分かりやすいので、多くの人に観てほしい。そして市民の皆様へ手話を広げたい。」と伺い、手話普及に向けた地道な啓発の大切さを感じた。

私には「音声言語」による会話が必要なのに、ろう者にとって「手話」は言語であり、意思疎通に不可欠なのだとも認識した。
(藤田)

